流通機器システムの展望

梁根　　操（あわね　みさお）
富士電機リテイルシステムズ株式会社
常務取締役商品企画本部長

富士電機リテイルシステムズ株式会社の事業領域は流通機器システム事業と位置づけているが，具体的には自動販売機，金銭処理機，カード機器，コールドチェーン機器，フードサービス機器および関連システム事業，サービス事業である。この業界を取り巻く社会環境の変化を整理し，業界発展につなげる努力を鋭意進めている。

環境変化の一番目が「急激な高齢化社会への移行」である。労働力の低下が懸念されるとともに高齢化および生活習慣病患者の増加から，国民は医療と健康を最も重要と評価している。

二番目が「経済の成熟化」である。1980 年代に世界のトップレベルになった所得とともに消費も拡大してきたが，近年その増加率は低下してきている。われわれの顧客である流通業界を含め競争が激化してきている。

三番目が「地球環境問題の顕在化」である。オゾン層破壊，地球温暖化，省資源・リサイクル，廃棄物処理などの問題が顕在化してきている。

四番目が「価値観の変化」である。生活者の価値観は自分中心主義が強まりますます多様化していくと思われる。

五番目が「社会不安の増大」である。終身雇用制度の崩壊や年金制度の見直し，治安の悪化，食に対する安全性など生活者の不安は高まってきている。

六番目が「グローバル化」である。部品や製品の輸出入や海外生産拠点の増加に合わせ，規格や基準の整合が必要になってきている。

このように環境変化や多様化するニーズに対し流通機器業界はさまざまな技術革新が進むと思われるが，特に IT 化・高度情報化の技術革新は目覚ましいものがある。

流通機器システムにかかわる業態別動向，技術開発動向などを踏まえて，流通機器の将来シナリオをまとめると，システム化，インテリジェント化，ソーシャル化の三つに集約される。

流通機器の将来像は技術的な高度化・システム化だけでなく，社会貢献の必要性，環境に合わせた形状，デザイン開発，健康・衛生を考慮した商品開発などソーシャル面での重要性が増すと思われる。

このような背景のもと，富士電機が目指す「快適商空間の創造」という観点で流通機器およびシステムを展望してみる。環境調和の面では消費電力の低い機器のさらなる開発が進み，危険物資の使用全廃やリサイクル・廃棄処理に適した分解容易性の要求も強まってくる。冷却システムを搭載している機器においては脱フロン化も進んでいく。急速な高齢化社会へ移行する中で，弱者への配慮の視点から機器のバリアフリー化，ユニバーサルデザイン化も進むであろう。未成年者の飲酒・喫煙の問題から，酒類自動販売機と同様にたばこ自動販売機においても成人識別装置の搭載が進むものと思われる。また，社会不安に対応して防犯機能や震災時の飲料の供給機能，情報発信機能を有した社会貢献型・地域貢献型自動販売機の期待も高まっている。急増している偽造貨幣に対するセキュリティ技術および識別技術の向上も望まれる。

スーパーマーケットやコンビニエンスストアにおけるショーケースは，生活者の食の安全意識の高揚に対応し高度な温度管理や IC タグによるトレーサビリティ機能を搭載した機器システムも実現されるであろう。貨幣処理機器においては偽造に対し識別性能の向上が望まれる。また，近年脚光を浴びている非接触 IC カードやお財布携帯は，電子マネーの利用だけでなくさらに高度なサービスへと発展していき，リアルな流通とサイバーな流通の両方に貢献していくものと思われる。

ファストフード店や飲食店におけるフード機器は，生活者の嗜好（しこう）の多様化に対応するとともに衛生面も含めたオペレーション性を考慮した機器開発が必要になる。また，おのおのの流通機器はネットワークに接続されオペレーションの効率化や新規サービス提供が進んでいくケースも出てくるであろう。

富士電機の具体的な機器・システム開発の事例は別稿で個々に述べるとして，顧客に喜んでいただける機器・システムの開発と生活者の価値につながる商品開発を続けていく所存である。環境変化に対応した商品開発・技術革新が流通機器システム業界の発展につながることを期待している。